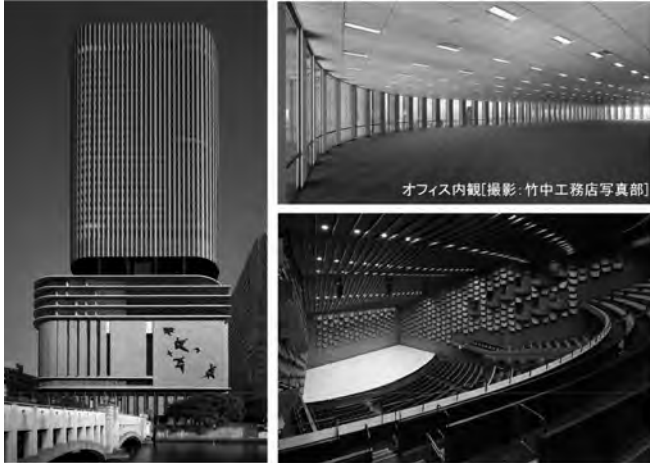


建築主：株式会社朝日新聞社 曾根 宏司  
 設計者：株式会社日建設 吉田 聡、岡田 健  
 近畿大学 阿波野 昌幸  
 施工者：株式会社竹中工務店 山本 啓介



建物外観（南面）  
 [撮影：古田雅文]

ホール内観  
 [撮影：竹中工務店写真部]

## 建築概要

建設地：大阪市北区中之島2丁目  
 建築主：株式会社朝日新聞社  
 設計：株式会社日建設  
 施工：株式会社竹中工務店  
 建築面積：5,725.26㎡ 延床面積 145,602.26㎡  
 階数：地上39階、地下3階 高さ：198.96m  
 構造種別：中間層免震構造 S造／SRC造／RC造

## 選評

大阪の都心である中之島に、大空間を要する2700席規模の音楽ホールと、センターコア型のオフィスという、全く異なる用途・空間・構造を、免震層を含む大胆な構造切替によって積層させた超高層複合施設である。

本計画の傑出する点は、異なる用途を積層させる構造的な解決方法と、建築的な空間構成に強い一体感を感じる点である。特に下部（ホール）と上部（オフィス）をつなぐ構造切替部分に設けられたスカイロビーにそれが顕著に現れている。メガトラスと呼ばれる巨大スケールの構造体が、開放感の高い空間を生み出しており、その外周のデッキは水都大阪を体感できる土佐堀川を望む魅力的な都市空間を創出している。

このプロジェクトが実現している超高層複合施設のあり様は、高度利用を求められる都心エリアにおいて、多様で魅力的な都市活動をうみ出すプロトタイプのひとつを示していると言えるだろう。

また免震層をまたぐシースルーエレベータのガラスカーテンウォールの変位追従機構や、細い柱を細かく配置したオフィスの外周構造（「アウトチューブフレーム」と呼ばれる）、メガトラスの鉄骨仕口の意匠的な処理等、細部にいたるデザインの創意に溢れている事も付記しておきたい。  
 （篠崎 淳）

## 免震化した経緯及び企画設計等

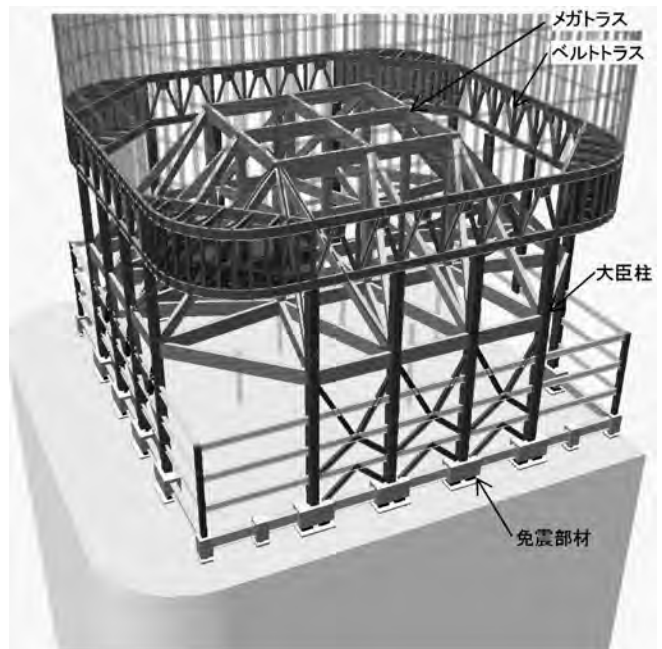
本建物は、2700席規模の本格的音楽ホール（フェスティバルホール）、床面積2万㎡の朝日新聞大阪本社、および床面積8万㎡のセンターコア型テナントオフィスを組み合わせて計画された高さ200m級の超高層複合建物である。各用途・機能には高い性能が求められ、かつ敷地の制約上これらを縦積みする必要があった。さらに、これらの与条件を高い耐震性能とともに実現することが求められた。

高層階の荷重をホール外周部に伝達する軸力乗換機構（巨大トラス）、異なる用途・構造形式を柔らかく接続する中間層免震により、各用途の建築性能を高く保ちつつ縦積みし、高い耐震性能で実現している。

## 技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

免震層に設置する免震部材や巨大トラスを構成する各部材は、これまでにない極めて大規模なもので、精緻な設計や、端正な意匠を現実化する細部の工夫、設計監理施工が一体となる協力体制により完成している。

巨大トラスは免震層上部の重量を建物外周部に集約することで、免震構造としての性能を最大限に高め、中間層免震は高層階に作用する地震力を小さく抑えて巨大トラスの地震時安全性を高めるなど、2つの技術が相互に影響しあい建物の構造性能を高めることに寄与している。



巨大トラスと中間層免震概念図